

「学校図書館の絵を描く授業評価アンケート」の 韓国文献情報学科の学生への試み

岡田 大輔
(相愛大学；講師)

Trial of the image drawing method for Korean LIS students

By Daisuke OKADA
(Soai University)

1 これまでの経緯

1.1 「学校図書館員の重要性」が受講生に伝わったか判断したい

報告者は、2012 年度、2013 年度の 2 年間、前任の大学にて、学校図書館の活用に関する授業を担当した。この授業は、司書課程や司書教諭課程の授業ではなく、教職課程の選択科目であるため、受講生の学校図書館に対する興味は必ずしも高くない。また、小中学校では学校司書の配置が少ない地域であり、学校図書館での授業を経験した受講生は多くない。

そのため、学校図書館の専門家とはならない受講生に向け、学校図書館に対する興味を広げ、ことを念頭に置きつつ、「(学校司書や司書教諭などの) 学校図書館員と協力し授業をする」をこの授業の目標とした。ただ、この目標には、「将来教員となったときに、学校図書館員と授業してみたいと思う」という態度目標が含まれるが、通常の方法では測定することが難しい。開講初年度に行った、最終レポート「学校図書館での授業の指導案」の出来だけでは、受講生が授業の目標を達成したかを確認することは難しいと考えた。

1.2 受講生が絵に学校図書館員を多く描けば、授業は成功している

そのため、翌 2013 年度では、塚本らが情報教育で用いた方法¹⁾を元に、受講生が 3 分間で描いた絵を調べる手法 (Image Drawing Method ; IDM) を考え実施した。

受講生は初回の授業と最終回の授業で、2 回学校図書館の絵を描く。受講前は図 1 のような絵を描く受講生が多くても構わない。しかし、受講後には、学校図書館員が絵の中に描かれている図 2 のような絵を描く受講生が増加することを期待した。学校図書館員の重要性が授業の

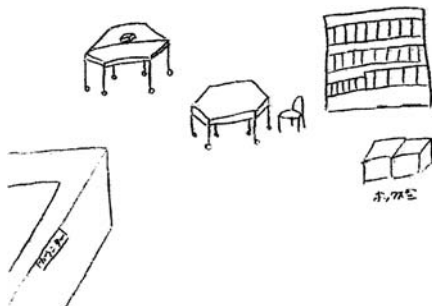


図 1 受講生による例 (学校図書館員なし)

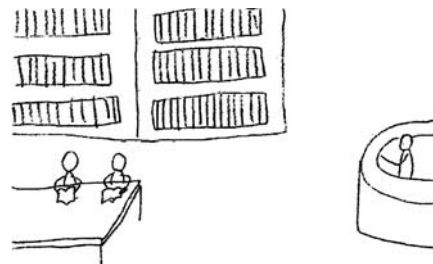


図 2 受講生による例 (学校図書館員あり)

目標であるからである。

1.3 受講後に学校図書館員を描く学生は他大学の授業より増加した

結果として、書架などの他の項目は変化しないにも関わらず、受講後に学校図書館員を描く受講生が有意傾向で増加した²⁾。

しかし、最終的に学校図書館員を描いた学生は、32 名中 12 名に留まったため、他 12 大学の司書教諭課程においても同種の調査を依頼し比較を試みた。結果として、学校図書館員を描く割合は他大学の司書教諭課程の受講生と変わらず、自らの授業は成功していると示唆された³⁾。

また、将来教員になったとき、積極的に学校図書館員と相談してみようと思っている受講生は絵の中に学校図書館員を描くことが多い⁷⁾という結果が得られ、学校図書館員の増加で入門的な授業を評価することはある程度妥当性があるものと考えられる。

1.4 発展的科目では何を測定すればいいか

しかし、“学校経営と学校図書館”を除く司書教諭科目など、発展的な内容を扱う科目の受講生は学校図書館員の重要性は理解していると考えられ、学校図書館員の増加だけでは授業を評価することは難しい。

そのため、他大学の受講生も含めて、描かれた絵に表れる、「書架」「机」「PC」「児童生徒」「ソファ」「授業中（図 3）」などを測定した。しかし、司書教諭科目の“情報メディアの活用”で「PC」が新たな指標となる可能性が見つかった⁴⁾以外に可能性のある項目は得られなかった。また、学校図書館員の有無に比べあいまいさが出ると考えられるが、人と人の「コミュニケーション」が指標とならないか検討した。しかし、これも大きな結果は得られなかった⁵⁾。

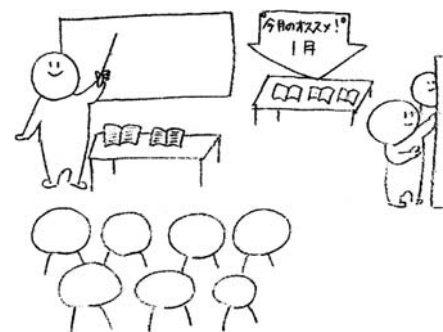


図3 「授業中」が含まれる例（他「学校図書館員」「書架」「机」「児童生徒」）

2 目的

2.1 学校図書館員が描かれる“基準値”

学校図書館員の重要性を理解していても、絵のスキルをはじめとするさまざまな要因で学校図書館員を描かない受講生もいると考えられる。実際に、司書教諭課程においても、受講後に学校図書館員を描く学生は半数に満たないことが多い。

そのため、“学校図書館員の重要性を理解していると考えられる学生ならばどの程度学校図書館員を描くか”という基準となる値を求めたいと考えた。

ただ、現在の日本において専任の司書教諭となることは難しく、司書教諭課程の受講生であっても、学校図書館に対する興味が十分に高いとは言えない。また、5科目10単位というカリキュラム上の問題もある。そのため、全ての司書教諭課程の受講生が学校図書館員の重要性を理解しているとは言い難い。また、現在の日本においては、学校図書館について専門的に学ぶ

学生は少なく、図書館情報学を専攻する学生に学校図書館のことを教える授業も多くはない。

対して、韓国に於いては 30 を超える大学に文献情報学科（日本における図書館情報学科）が設置されており、学校図書館に関する授業が開講されていることが多い。図書館情報学を専攻する学生に向けて行われている学校図書館の授業における割合は、一定の基準となると考えられる。

もちろん、文化の違いなどがあり、単純に比較することはできない。そのため、まず 1 つの大学で試行的に調査を行うこととした。

2.2 学校図書館員以外に絵の中の有用な項目はあるか

現在のところ、学校図書館員の増加のみしか有益な指標とはできていないが、この方法は司書教諭課程や学校図書館モデルカリキュラムなどでも有効であると考えられる。

図書館を専攻する学生、また文化の違う学生による絵を収集することで、発展的科目における新たな指標のヒントとなると考えた。

3 方法

韓国の A 大学の文献情報学科で開講されている科目「学校図書館」にて協力を得て調査を行った。

韓国語の質問紙に変えた以外、調査の方法は³⁾以降変えていない。

収集されたサンプルから、初回と最終回の授業の 2 回共に回答したものを選び、文献情報学科以外の学生を除いた 32 名の絵を分析対象とした。

4 結果

学校図書館員が描かれていたのは、受講前 28.1%・受講後 25.0% であった。日本における司書教諭課程での調査と大きな違いは見られなかった（図 4 表 1）。

また、絵に関しても大きくは日本と変わらず、特別に違うものが書かれることはなかった。

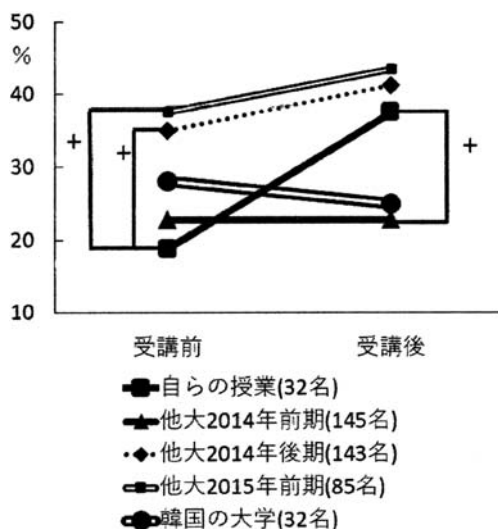


図 4 学校図書館員を描いた学生の割合

5 結論

韓国における調査は 1 大学の 1 つの授業についてしか行っていない。そのため、まだ明確ではないが、学校図書館員の重要性を理解している学生であっても半数以下の学生しか学校図書館員を絵

表 1 学校図書館員を描いた学生の割合 (%)

	受講前	受講後
自らの授業 (32 名)	18.8	37.5
他大 2014 年前期 (145 名)	22.8	22.8
他大 2014 年後期 (143 名)	35.0	41.3
他大 2015 年前期 (85 名)	37.6	43.5
韓国の大学 (32 名)	28.1	25.0

に描かないということが示唆された。

また、今回の調査では、発展的な科目における可能性がある指標を見つけることはできなかった。

6 今後の課題

6.1 司書課程「図書館概論」や現職の方への調査

韓国における調査を増やすとともに、司書課程の「図書館概論」や学校司書モデルカリキュラムの「学校図書館サービス論」においても調査を行うことを予定している。また、現職の学校図書館員への調査も考えられる。

6.2 絵の意図のインタビュー

現在の調査票にも「上の絵を書いた理由を文章で説明してください。」の設問は設定されている。しかし、学生によって記述の度合いは異なり、「絵の中の人が児童生徒か大人か」などの分析にしか用いることができていない。

学生に直接インタビューすることによって、「学生が重要だと思った内容をいかに絵に表すか」を把握し、有用な項目の設定と調査票の設問、“あなたの「学校図書館のイメージ」を絵で書いてください。(3分)”が適当であるか検討し、この手法が授業評価に有用であるかの検討を行いたい。

謝辞

調査に協力していただいた各大学の先生方・受講生、また、絵の掲載に同意してくれた受講生に感謝します。

注

この報告は、口頭発表^[6,8]の結果をまとめたものである。

参考文献

- 1) 塚本榮一, 小坂和子, 赤堀侃司. 「大学における情報教育の授業を評価・改善するためのイメージ描画法の適用」『日本教育工学会論文誌』29(4), pp.455-462, 2006
- 2) Okada, D. Using the image drawing method to examine students' perceptions of school libraries. IASL 2014 proceedings 43 : pp.205-212 2014. 12
- 3) Okada, D. How the image drawing method can act as an alternative barometer of librarian instruction. IASL 2015 proceedings 44(2) : pp.338-345 2015. 11
- 4) 岡田大輔 「「学生が絵を描く授業評価アンケート」の司書教諭課程の科目ごとの分析」『図書館学』108 : pp.24-30 2016. 3
- 5) 岡田大輔 「「学生が絵を描く授業評価アンケート」の新たな評価項目」『大学教育研究フォーラム 発表論文集』22, pp.168-169 2016. 3
- 6) Okada, D. Image Drawing Method of School Librarian Instruction. Proceedings of Korean Library and Information Science Society, pp.163-182 2016. 5
- 7) Okada, D. Using the image drawing method to examine advanced lectures of a teacher librarian program. International Association of School Librarianship 2016 Conference proceedings, 45, 2016. 8
- 8) Okada, D. Trial of the image drawing method for Korean LIS students. Journal of LISSASPAC JAPAN, 1 (1), p.26, 2017. 8